

# 【普及の現場から】

## 「津山地域の稲ホールクロップ

## サイレージ生産流通推進の取り組み パート2」

津山農業普及指導センター

### 1 はじめに

津山地域では、飼料稲の作付面積が年々拡大、今年新たに津山市の大篠地区、堀坂地区、久米南町の塩之内地区が加わり38haを超える栽培面積となりました。昨年発足した津山地域飼料稲生産利用研究会では低コスト栽培研修や、栽培ごよみを活用した栽培技術の向上、農薬の適正使用の徹底を図ったほか、これまでの問題点を整理し、解決に向けての取り組みを行ったので報告します。

### 2 経過

平成13年から耕畜連携による稲ホールクロップサイレージ(WCS)の作付け利用が進み、平成20年は38haを超える作付面積となりました。とりわけ、津山市は、平成15年から6年連続で岡山県1位(旧久米町、旧勝北町を含む)の作付面積となっています。

また、平成19年には、生産する側の耕種農家と利用する側の畜産農家で組織する、津山地域飼料稲生産利用研究会を設立し(会長;高山勝好、耕種農家63名、畜産農家19名)、両者の連携強化を図っています。

### 3 問題点と対策について

問題点(19年度)	原因	対策(20年度)
【栽培方法について】 天候にも恵まれ収穫量は平均9ロール/10aとなったが、2.3~12.9ロール/10aとバラツキがあった。	鳥獣害や、栽培管理のバラツキ。	栽培ごよみ(移植用と鉄コング湛水直播用)の配布と現地研修会の開催 電気牧柵の設置。  ロールの周辺に釣り糸を張る。 また、削蹄した削りかすをまくとモグラ忌避対策に有効(農家からの情報)
【収穫について】 収穫の長期化により、収穫物の品質が低下した。 収穫ほ場の特定ができなく、収穫に手間取ったほ場があった。	天候不順と、作付け面積の拡大による収穫の遅れ。	新型の細断型収穫機の導入と、従来の収穫機、汎用型機械(生研機構)、県南からの協力により4台体制で収穫を実施。 収穫ほ場に連番をつけ、ほ場には看板を設置、収穫作業が円滑に行えるようにした。

<p><b>【品質について】</b> 腐敗やカビなどが発生し、廃棄を余儀なくされた利用農家があった。</p>	<p>保管の不備。 収穫時の天候不順。 多施肥により草丈の伸びすぎた稲を収穫したため、ロールの密度低下を招いた。</p>	<p>フィルムの破損はテープで補修。 生産農家は収穫に向けてのほ場管理まで、収穫後の保管は利用農家が行う。 草丈を伸ばすのではなく、追肥で茎数を増やし多収化する。 密度の問題は新型の細断型収穫機で解消。</p>
<p>雑草の混入が目立ち、品質が低下した。</p>	<p>管理の問題。農薬に制限があり、除草対策に積極ではない。</p>	<p>こまめな除草剤散布を指導。</p>

### 3 今年の取り組み

今年、栽培ごよみや栽培管理記録表の作成と配布、管理栽培講習会等を通じ、使用可能農薬の徹底が図られ、高品質なサイレージができていると思われま。また、低コスト省力栽培技術として、実証を行ってきた鉄コーティング湛水直播栽培についても、今年の作付面積は7haを超え、一部、ヒなどの雑草も見受けられたものの、ほ場巡回や実証結果からも十分な収量が確保できており、技術確立できたといえます。

### 4 これから

運搬については、今年もこれまでどおり利用農家が協力し合うことになりました。しかし、今後作付面積拡大が予想されるため利用農家だけでは限界があり、運搬や堆肥散布等を請け負う組織の育成が必要です。堆肥散布については事業を活用し、共同で機械導入を計画している農家もありました。

また、今年から和牛繁殖農家も稲 WCS を給与します。給与実証をしながら、給与マニュアルを作成し、今後さらなる和牛農家への利用の推進をはかる予定です。

次ページには、従来型で問題となった品質の管理の改善策（事例）を紹介しま。

なお、従来型で問題となった品質の管理の改善策（事例）を紹介しま。

#### ☆ 巻数を増やす

片面のりで10層巻≒両面のり6層コストの面では、ラップコストは同じで作業コストが異なる。

8層巻以上にしてカビの発生を抑制  
→巻数を増やすかどうかは畜産農家がコントラクター組合に対し希望を伝える。

#### ☆ ロールの移動を極力避ける

ラップして12月まで静置し品質を安定させ、寒い時期の2～3月に動かす。

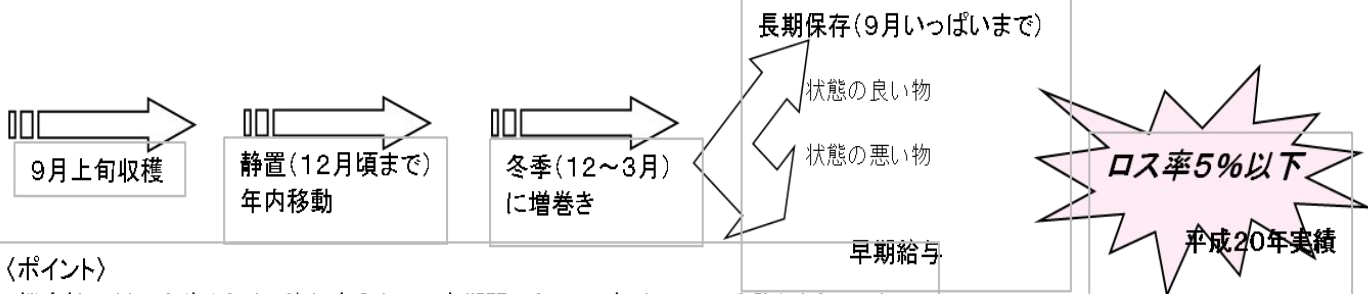
#### ☆ ラップ補強を行う。

4月からの気温上昇に伴いカビが増えるので、傷んでいるロールは早めに給与し、良質なロールと判断される場合は、3月に再度ラッピング(1回)し、長期保存用にする。

情報提供していただいたA牧場では、次のページのとおり保管方法を工夫し実際にこの方法で8月下旬まで給与していましたが、サイレージの品質には全く問題がありませんでした。

★A牧場の事例

保管方法を工夫し、90%以上が良質なサイレージとなっている。



〈ポイント〉

- ・機密性の低下を防ぐため、給与するまでの全期間において、極力ロールは動かさないこと。
- ・特に発酵直後しばらくはほ場から動かさない(できれば12月頃まで)。動かさないと行けない場合は、一卷き追加。
- ・耕種農家からは年内に移動する。移動後、良いロールについては巻き直しを行う。
- ・巻き直しについては、寒い時期(12~3月中)に行う。



〔積み置き状況〕  
・形の悪い物、締まりの悪い物は早期に利用する。



〔開封・表面〕  
・表面にカビは一切見当たらない



〔内部〕  
・内部にもカビは見当たらない



〔におい〕  
・異臭無し。良質なサイレージの臭い